

補足情報

『取扱説明書』の補足情報です。
より詳しい使い方や、細かい設定を変更する方法などを説明しています。

●パソコンに添付の紙マニュアルもあわせてご覧ください。

『箱の中身を確認してください』



添付の機器、マニュアルなどの一覧です。
ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか
確認してください。

『取扱説明書』



使用上のご注意、パソコンを使うための
準備、基本的な取り扱い方法、ご購入時
の状態に戻す方法、お問い合わせ方法な
どを説明しています。

目次

本書をお読みになる前に		
本書の表記	2	
商標および著作権について	4	
1. ディスプレイ		
画面の解像度と発色数	5	
画面の解像度や発色数の変更	8	
外部ディスプレイの接続	8	
表示するディスプレイの切り替え	10	
2. サウンド		
再生時／録音時の音量を調節する	15	
兼用端子の機能切り替え	16	
3. 通信		
LAN	18	
無線 LAN	22	
Bluetooth ワイヤレステクノロジー	27	
4. スタンバイ／休止状態		
スタンバイ／休止状態とは	34	
スタンバイ／休止状態にするうえでの注意	35	
スタンバイ／休止状態の設定変更	36	
5. 省電力ユーティリティ		
省電力ユーティリティとは	38	
省電力モードにするうえでの注意	38	
省電力モードの使い方	39	
省電力モードの設定変更	40	
6. ソフトウェア		
ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意	42	
インストール	43	
アンインストール	45	
7. BIOS の設定		
BIOS セットアップの操作	46	
BIOS のパスワード機能	49	
BIOS が表示するメッセージ一覧	54	

本書をお読みになる前に

本書の表記

■ 本文中での書き分けについて

本書には、複数の機種の内容が含まれています。機種によっては、記載されている機能が搭載されていない場合があります。また、機種により説明が異なる場合は、書き分けています。

お使いの機種にあった記載をお読みください。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
	冊子のマニュアルを表しています。
	CD や DVD などのディスクを表しています。
	参照ページを表しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】 + 【F3】キー、【Shift】 + 【↑】キーなど

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「▶」でつなげて記述しています。

例： スタート (スタート) をクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作



 スタート (スタート)▶「すべてのプログラム」▶「アクセサリ」をクリックします。

■ 画面例およびイラストについて

画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ CD や DVD の使用について

本文中の操作手順において、CD または DVD を使用することがあります。操作に必要なドライブが搭載されていない場合は、次のポータブル CD/DVD ドライブのご購入をお勧めいたします。

●品名/型名

・スーパーマルチドライブユニット / FMV-NSM53

他社製品をご購入の場合は、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「他社周辺機器接続情報」をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ 製品の呼び方

このマニュアルでの製品名称を、次のように略して表記することがあります。

製品名称	このマニュアルでの表記
FMV-BIBLO LOOX	FMV または BIBLO または BIBLO LOOX またはこのパソコン
Windows® XP Home Edition	Windows または Windows XP
Windows® Internet Explorer® 8	Internet Explorer 8 または Internet Explorer
Microsoft® Office Personal 2007	Office 2007 または Office Personal 2007
Blu-ray Disc ドライブ	CD/DVD ドライブ
スーパーマルチドライブ	
ポータブルスーパーマルチドライブ	

■ お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先やURLは2009年12月現在のものです。

■ 安全にお使いいただくための絵記号について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Internet Explorer、Office ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

インテル、Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Copyright FUJITSU LIMITED 2010

1. ディスプレイ

画面の解像度と発色数

ここでは、このパソコンの液晶ディスプレイやこのパソコンに接続したディスプレイに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度や発色数について説明しています。

解像度と発色数についてのご注意

- ソフトウェアによっては、解像度および発色数の設定により、正常に動作しないことがあります。ソフトウェアの動作環境を確認し、解像度および発色数を変更してください。
- 外部ディスプレイで表示できる解像度は、お使いの外部ディスプレイによって異なります。外部ディスプレイのマニュアルでご確認ください。
- プラグアンドプレイに対応している外部ディスプレイの場合、最大解像度は、液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのどちらかの最大解像度の小さいほうに設定されます。
- 同時表示を選択した場合、外部ディスプレイの画面は、液晶ディスプレイの画面と同一の解像度になります。
- 解像度を切り替えるときなどに、一時的に表示画面が乱れることがありますが、故障ではありません。
- 同時表示時に、外部ディスプレイの画面が正しく表示されないことがあります。
- 解像度と発色数は、「表示できる解像度と発色数」(→ P.5) の表の組み合わせ以外には設定しないでください。
- 画面の解像度や発色数、およびリフレッシュレートを変更するときは、起動中のソフトウェアや常駐しているプログラムを終了させてください。また、変更後は必ずパソコンを再起動してください。

表示できる解像度と発色数

■ 液晶ディスプレイの場合

お使いのパソコンの液晶ディスプレイの解像度は、1280 × 800 です。

解像度 (ピクセル)	発色数 <small>[注 1] [注 2]</small>	
	中 (16 ビット)	最高 (32 ビット)
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 800	○	○

注 1：○は表示可能。

注 2：中 … 約 6 万 5 千色

最高 … 約 1677 万色 (擬似的に色を表示するディザリング機能を利用)

■ 外部ディスプレイの場合

外部ディスプレイの解像度をご確認ください。

接続した外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。

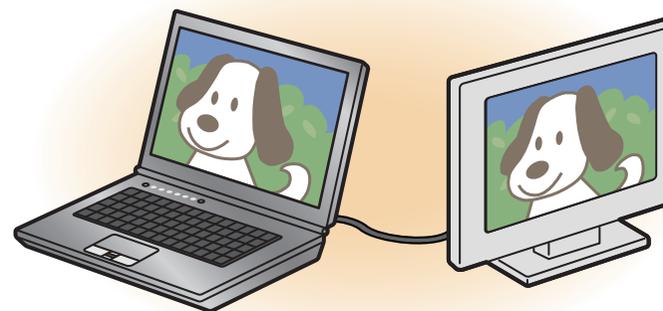
解像度 (ピクセル)	発色数 <small>[注1] [注2]</small>	
	中 (16ビット)	最高 (32ビット)
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 720 <small>[注3]</small>	○	○
1280 × 768 <small>[注3]</small>	○	○
1280 × 800	○	○
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 <small>[注3]</small>	○	○
1400 × 1050 <small>[注3]</small>	○	○
1440 × 900 <small>[注3]</small>	○	○
1600 × 900 <small>[注3]</small>	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050 <small>[注3]</small>	○	○
1920 × 1080 <small>[注3]</small>	○	○
1920 × 1200 <small>[注3]</small>	○	○

注1：○は表示可能。ただし表示ディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注2：中… 約6万5千色
最高… 約1677万色

注3：お使いの外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

■ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示の場合



液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示する場合は、「画面の設定」ウィンドウのプライマリとセカンダリを次のように設定してください。

- プライマリ：ノートブック（液晶ディスプレイ）
- セカンダリ：PC モニタ（外部ディスプレイ）

お使いのパソコンの液晶ディスプレイの解像度は、1280 × 800 です。

外部ディスプレイの解像度もあわせてご確認ください。

お使いの外部ディスプレイがサポートしている次の解像度を表示できます。
1280 × 1024 以上の解像度ときは、液晶ディスプレイには一部の範囲のみが表示され、他の領域はマウスポインタを動かすことによって表示できます。

解像度 (ピクセル)	発色数 ^[注1] ^[注2]	
	中 (16ビット)	最高 (32ビット)
800 × 600	○	○
1024 × 768	○	○
1280 × 720 ^[注3]	○	○
1280 × 768 ^[注3]	○	○
1280 × 800	○	○
1280 × 1024	○	○
1360 × 768 ^[注3]	○	○
1400 × 1050 ^[注3]	○	○
1440 × 900 ^[注3]	○	○
1600 × 900 ^[注3]	○	○
1600 × 1200	○	○
1680 × 1050 ^[注3]	○	○
1920 × 1080 ^[注3]	○	○
1920 × 1200 ^[注3]	○	○

注1：○は表示可能。ただし表示ディスプレイの解像度より大きい解像度の場合は表示できません。

注2：中… 約6万5千色

最高… 約1677万色(液晶ディスプレイは擬似的に色を表示するディザリング機能を利用)

注3：お使いの外部ディスプレイの解像度と同じ場合、表示できます。

■ マルチモニターの場合



マルチモニター機能をお使いになるときは、ディスプレイのプライマリとセカンダリを次のように設定してください。

- プライマリ：ノートブック (液晶ディスプレイ)
- セカンダリ：PC モニタ (外部ディスプレイ)

「液晶ディスプレイの場合」、「外部ディスプレイコネクタに接続したディスプレイの場合」に表示できるそれぞれの解像度で表示できます。

画面の解像度や発色数の変更

ここでは、このパソコンの液晶ディスプレイにパソコンの画面を表示するときの、画面の解像度や発色数を変更する方法について説明しています。

重要

- ▶ 設定変更時の画面表示の乱れについて
解像度や発色数を変更するときに一時的に画面表示が乱れることがあります。故障ではありません。

1 デスクトップで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

3 解像度や発色数を変更します。

4 「適用」をクリックします。

「モニタの設定」ウィンドウが表示された場合は、15 秒以内に「はい」をクリックしてください。

5 「OK」をクリックします。

外部ディスプレイの接続

外部ディスプレイを接続するとできること

パソコン本体に外部ディスプレイを接続することができます。
パソコン本体に外部ディスプレイを接続することで、次のことができます。

- 表示するディスプレイを切り替える。
- 2つのディスプレイに同時に表示する。
- 2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する（マルチモニター機能）。

ここでは、外部ディスプレイを接続する手順について説明しています。

必要なものを用意する

- 別売の変換ケーブル（LAN/CRT）
- 外部ディスプレイ
外部ディスプレイによって接続するコネクタや接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。
外部ディスプレイコネクタに CRT ディスプレイや液晶ディスプレイを接続することができます。
- ディスプレイケーブル
外部ディスプレイとパソコンを接続するケーブルです。
- 外部ディスプレイのマニュアル
外部ディスプレイにより接続方法が異なります。必ず外部ディスプレイのマニュアルもご覧ください。

外部ディスプレイを接続する

警告



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

- 1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。**
- 2 パソコン本体のLAN/CRT変換コネクタに別売の変換ケーブル(LAN/CRT) を接続します。**
接続する場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- 3 変換ケーブル (LAN/CRT) の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。**
- 4 外部ディスプレイにディスプレイケーブルのもう一方のコネクタを接続します。**
接続方法は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 外部ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。**
- 6 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。**
必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えます。

外部ディスプレイ接続後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示された場合は、次のように対応してください。

- 外部ディスプレイに CD-ROM などが必要なファイルが添付されていることがあります。この場合は、外部ディスプレイのマニュアルをご覧になり、必要なファイルをインストールしてください。

Point

- ▶ 外部ディスプレイを接続後、外部ディスプレイのみに表示する設定にしても、接続するディスプレイによっては、パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの両方に画面が表示されることがあります。必要に応じて、表示するディスプレイを切り替えてください。
- ▶ このパソコンの液晶ディスプレイやこのパソコンに接続したディスプレイに、パソコンの画面を表示するときの画面の解像度や発色数については、「画面の解像度と発色数」(→ P.5) をご覧ください。

表示するディスプレイの切り替え

このパソコンに外部ディスプレイを接続した場合に、表示するディスプレイを切り替えることができます。

ここでは、切り替え方法について説明しています。



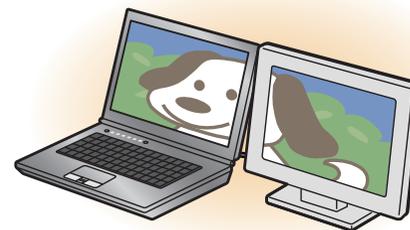
Point

- ▶ 外部ディスプレイコネクタに接続した場合、「Fujitsu Display Manager」を起動して、表示するディスプレイを切り替えることもできます。

ディスプレイの表示について

ディスプレイの表示は、次のように切り替えることができます。

- **1つのディスプレイで表示する**
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイ
 - ・接続した外部ディスプレイ
- **2つのディスプレイで同時に表示する**
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと、接続した外部ディスプレイ
- **2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する**



2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示する方法については、「マルチモニター機能を使う」(→ P.12)をご覧ください。

重要

- ▶ 動画再生中に、表示するディスプレイを切り替えしないでください。

Point

- ▶ Windowsが起動すると、表示されるディスプレイは、前回Windowsで使用していた状態になります。
ただし、外部ディスプレイが接続されていない場合や、プラグアンドプレイに対応していないディスプレイが接続されている場合は、液晶ディスプレイのみの表示になります。

「画面の設定」で切り替える

Point

- ▶ 外部ディスプレイによって対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。状況に応じて次の操作を行ってください。
 - ・何も表示されない場合
何も操作しないでお待ちください。10秒ぐらい待つと、表示先が液晶ディスプレイに戻ります。表示先が液晶ディスプレイに戻らないときは、【Fn】 + 【F4】キーを押して、表示先を切り替えてください。
 - ・正常に表示されない場合
外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応している解像度や走査周波数を確認し、設定を変更してください。
- ▶ 2つのディスプレイで同時に表示する場合、DVD-VIDEOやBlu-ray Discなどの著作権保護を有するコンテンツを再生することはできません。

1 デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。

「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「設定」タブをクリックします。

3 「詳細設定」をクリックします。

4 「Intel® Graphics Media Accelerator Driver」タブをクリックします。

5 「グラフィック プロパティ」をクリックします。

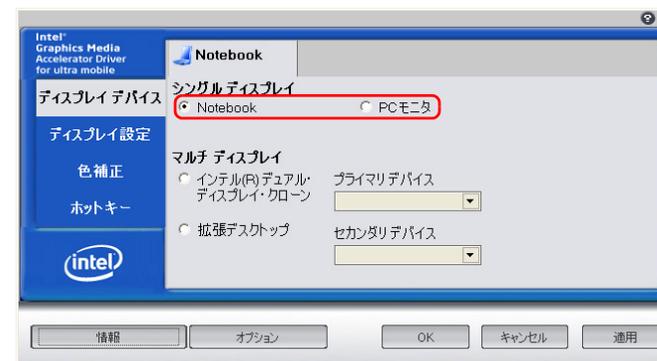
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」ウィンドウが表示されます。

6 左の一覧から「ディスプレイ デバイス」をクリックします。

7 表示するディスプレイを選択します。

● 1つのディスプレイで表示する場合

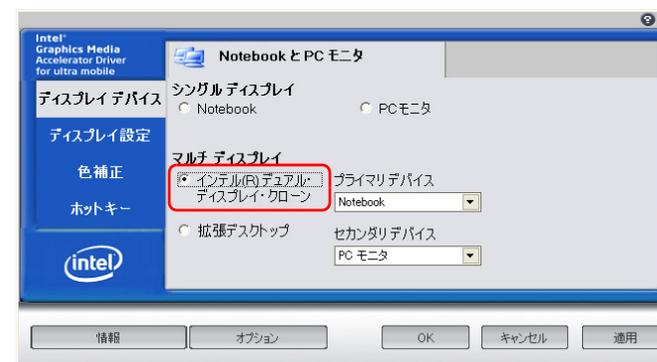
「シングルディスプレイ」の「Notebook」か「PC モニタ」のどちらかを選択します。



(画面は機種や状況により異なります)

● 2つのディスプレイで同時に表示する場合

「マルチディスプレイ」の「インテル (R) デュアル・ディスプレイ・クローン」を選択し、プライマリデバイスの▼をクリックして表示するディスプレイを選択します。



(画面は機種や状況により異なります)

Point

- ▶ 2つのディスプレイで同時に表示する場合、プライマリとセカンダリの設定は次のようにしてください。
 - ・プライマリ：Notebook
 - ・セカンダリ：PC モニタ
- ▶ プライマリデバイス、セカンダリデバイスの解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

8 「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。

9 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

キーボードで切り替える

キーボードで表示する画面を切り替えるには、次の2通りの方法があります。

- **【Fn】 + 【F4】** キーを押す

2つのキーを押すごとに、「外部ディスプレイ表示→液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示→液晶ディスプレイ表示→外部ディスプレイ表示…」の順でディスプレイ表示が切り替わります。

マルチモニター機能を使用中は、**【Fn】 + 【F4】** キーでディスプレイの表示を切り替えることができません。

Point

- ▶ プラグアンドプレイに対応していない外部ディスプレイの場合、キーボードで切り替えることはできません。「画面の設定」で切り替える(→P.111)をご覧ください。

マルチモニター機能を使う

このパソコンには、パソコンの液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使用して、2つのディスプレイで1つのデスクトップを表示できる「マルチモニター機能」があります。



■ マルチモニター機能をお使いになるうえでの注意

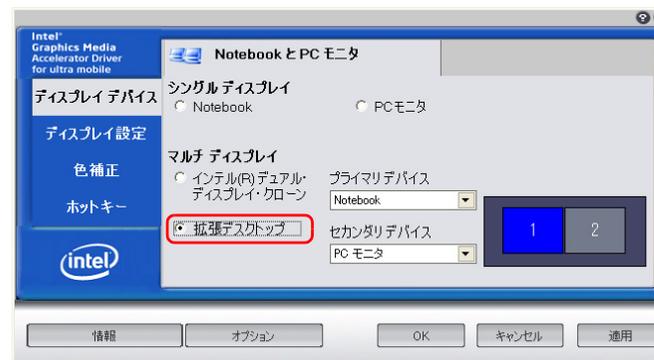
- マルチモニター機能をお使いになる前に、使用中のソフトウェアを終了してください。
- マルチモニター機能をお使いになるときは、パソコンの液晶ディスプレイを「プライマリ」、接続した外部ディスプレイを「セカンダリ」に設定してください。
- マルチモニター機能の使用中的ご注意
 - ・マルチモニター機能を使用中は、キーボードでディスプレイの表示を切り替えることはできません。
 - ・2つのディスプレイにまたがるウィンドウがある場合は、プライマリアダプターとセカンダリアダプターの設定を変更しないでください。
 - ・セカンダリアダプターのみに表示されているソフトウェアを起動中に、セカンダリアダプターの使用を終了しないでください。ソフトウェアおよびWindowsの動作が不安定になり、データが保存されないことがあります。
- プライマリアダプターのみで表示されるもの
 - ・液晶ディスプレイの全画面表示
 - ・一部のスクリーンセーバー
 - ・動画再生画面の全画面表示
 - ・アクセラレータ機能を使用している動画再生画面

- 発色数についての注意
 - ・プライマリアダプターとセカンダリアダプターで、別々の発色数を設定しないでください。

■ マルチモニター機能を設定する

- 1 外部ディスプレイをパソコン本体にある外部ディスプレイコネクタに接続します。
- 2 デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 「詳細設定」をクリックします。
- 5 「Intel® Graphics Media Accelerator Driver」タブをクリックします。
- 6 「グラフィック プロパティ」をクリックします。
「Intel® Graphics Media Accelerator Driver for ultra mobile」ウィンドウが表示されます。

- 7 左の一覧から「ディスプレイ デバイス」をクリックし、「マルチディスプレイ」の「拡張デスクトップ」を選択します。



(画面は機種や状況により異なります)

- 8 「プライマリデバイス」が「Notebook」、「セカンダリデバイス」が「PC モニタ」であることを確認します。
設定が異なっている場合は▼をクリックして正しく設定してください。
- 9 「適用」をクリックしディスプレイを切り替えます。
- 10 デスクトップの変更を確認するメッセージが表示されたら「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

Point

- ▶ 「プライマリデバイス」、「セカンダリデバイス」の解像度やリフレッシュレートなどの詳細な設定は、左の一覧の「ディスプレイ設定」をクリックして表示される設定項目から変更することができます。

■ アダプターの表示位置を変更する

ここでは使用する2つのアダプターの表示位置を変更する場合の手順について説明します。

- 1 マルチモニター機能を設定します。
- 2 デスクトップの何も無いところで右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「設定」タブをクリックします。
- 4 ディスプレイのイラストを、表示する位置にドラッグします。

ディスプレイのイラストの配置により、「1」のディスプレイから「2」のディスプレイへの移動方法が決定されます。イラストの位置をディスプレイの物理的な配置と対応させる必要はありません。

● マルチディスプレイ内を左右に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを横に並べます。



(画面は機種や状況により異なります)

● マルチディスプレイ内を上下に移動させたい場合

「1」「2」と表示されたディスプレイを縦に並べます。



上下に並べます。

(画面は機種や状況により異なります)

5 「適用」をクリックします。

分割したデスクトップを表示する位置が変更されます。

2. サウンド

再生時／録音時の音量を調節する

スピーカーやヘッドホンの音量は、リモコン、キーボード、または画面の音量つまみで調節します。

ここでは、「音量ミキサー」ウィンドウや「サウンド」ウィンドウで音量を調節する方法を説明しています。

このパソコンの音量を調節するときは、スピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。スピーカーが故障する原因となる場合があります。

キーボードで音量を調節する操作については、📖『取扱説明書』－「取り扱い」－「音量」をご覧ください。

画面上の音量つまみで音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある🔊（音量）アイコンをクリックします。音量を調節する画面が表示されます。

Point

- ▶ 通知領域に「音量」アイコンが表示されない場合は、次の手順を実行してください。
 1. 🏠 スタート（スタート）▶「コントロールパネル」▶「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」の順にクリックします。
 2. 「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
 3. 「音量」タブをクリックします。
 4. 「デバイスの音量」の「タスクバーに音量アイコンを配置する」のチェックを付けます。
 5. 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

- 2 音量つまみを上下にドラッグして、適当な音量に調節します。「ミュート」をチェックすると音が消え、画面右下の通知領域の表示も変わります。

Point

- ▶ 音量つまみを表示しているとき、キーボードで音量を調節すると、音量つまみも動きます。

- 3 デスクトップの何もないところをクリックします。音量を調節する画面が消えます。消えなかった場合は、いったん音量つまみをクリックしてから、デスクトップの何もないところをクリックしてください。

再生時／録音時の音量設定

「マスタ音量」ウィンドウで再生時や録音時の音量設定ができます。

■ 再生時の音量を調節する

ここでは、例としてスピーカーの音量を調節する方法を説明します。

- 1 画面右下の通知領域にある  (音量) アイコンをダブルクリックします。
「マスタ音量」ウィンドウが表示されます。
- 2 バランスや音量などを調節します。
- 3 ウィンドウの右上にある  をクリックし、ウィンドウを閉じます。

■ 録音時の音量を調節する

- 1 画面右下の通知領域にある  (音量) アイコンをダブルクリックします。
「マスタ音量」ウィンドウが表示されます。
- 2 「オプション」メニュー▶「プロパティ」の順にクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「ミキサーデバイス」から「Realtek HD Audio Input」を選択します。
- 4 「OK」をクリックします。
「録音コントロール」ウィンドウが表示されます。
- 5 バランスや音量などを調節します。
- 6 ウィンドウの右上にある  をクリックし、ウィンドウを閉じます。

兼用端子の機能切り替え

パソコン本体のヘッドホン・ラインアウト兼用端子は、ご購入時は「ヘッドフォン」として機能します。設定を変更することにより、「ライン出力」として機能させることができます。

設定を変更するには、次の手順を行ってください。

重要

- ▶ ヘッドホン・ラインアウト兼用端子に、あらかじめ外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続しておいてください。機器を接続していないときは、切り替えられません。
ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の搭載箇所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

- 1 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子に外径 3.5mm のミニプラグに対応した機器を接続します。
「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 2  (スタート)▶「コントロールパネル」▶「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」▶「Realtek HD オーディオ設定」の順にクリックします。
「Realtek HD オーディオマネージャ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「オーディオ I/O」タブをクリックします。
- 4 ヘッドホン・ラインアウト兼用端子の左側にあるアイコンをクリックします。
「デバイスタイプ」ウィンドウが表示されます。

5 使用するデバイスを にします。

- ・「ヘッドフォン」：ヘッドホン出力として動作します。内蔵スピーカーから音が出なくなります。
- ・「ライン出力」：ライン出力として動作します。内蔵スピーカーからも音が出ます。

Point

- ▶ 機器を接続するとデバイスを選択するウィンドウが表示されるように設定する場合
デバイスを選択するウィンドウで「デバイスを挿したときのポップアップダイアログを有効にします。」の を にします。端子に機器を接続すると、デバイスを選択するウィンドウが表示されるようになります。

6 「OK」をクリックし、すべてのウィンドウを閉じます。

LAN

ここでは、LAN（有線 LAN）を使うために必要となるものや LAN ケーブルの接続方法、ネットワークの設定方法について説明しています。

無線 LAN をお使いになる場合には、「無線 LAN」(→ P.22) をご覧ください。

重要

- ▶ ネットワーク設定時のご注意
TCP/IP などのネットワークの設定は、有線 LAN と無線 LAN で異なります。お使いになる状況に合わせて、必要な設定を行ってください。
- ▶ セキュリティ対策をしてください
初めてインターネットに接続するときは必ずセキュリティ対策をしてください。
このパソコンの出荷後、お客様にご購入いただくまでの間にも、セキュリティの脆弱性が新たに見つかったり、悪質なコンピューターウイルスが出現していたりする可能性があります。初めてインターネットに接続する場合は、マニュアルの手順に従って、パソコンを最新の状態にし、セキュリティ対策を行ってください。

必要なものを用意する

LAN を利用してインターネットに接続するには、次のような機器が必要です。

- ネットワーク機器
ネットワーク接続の目的に合わせて、このパソコンで使える LAN のスピードを確認してから必要なものをご用意ください。ネットワーク機器には次のようなものがあります。
 - ・別売の変換ケーブル（LAN/CRT）
 - ・ダイヤルアップルーター
 - ・ブロードバンドルーター
 - ・ブロードバンドモデム
 - ・ハブ
- LAN ケーブル
ストレートタイプとクロスタイプがあります。また、お使いになるネットワークのスピードに合ったものが必要です。接続するネットワーク機器のマニュアルをご覧ください。必要なものをご用意ください。
- ネットワーク機器のマニュアル
お使いになるネットワーク機器によって、接続や設定の方法が異なります。必ずネットワーク機器のマニュアルもご覧ください。光ファイバー（FTTH）回線や、ケーブルテレビ（CATV）回線、ADSL 回線などでインターネットに接続する場合は、プロバイダーや回線事業者から提供されるマニュアルもあわせてご覧ください。

LAN ケーブルを接続する

⚠ 警告



- 雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

⚠ 注意



- LAN コネクタに指などを入れないでください。感電の原因となることがあります。



- LANケーブルを接続する場合は、必ずLANコネクタに接続してください。

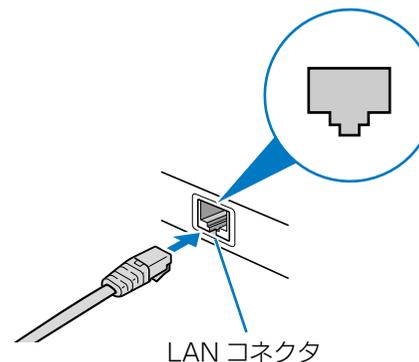
接続するコネクタを間違えると、故障の原因となることがあります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 パソコン本体のLAN/CRT変換コネクタに別売の変換ケーブル(LAN/CRT) を接続します。

接続する場所については、📖『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

3 変換ケーブル (LAN/CRT) の LAN コネクタに、LAN ケーブルの一方を接続し、もう一方を、お使いになるネットワーク機器のコネクタに接続します。



コネクタはまたはの向きです。形を互いに合わせてしっかり差し込みます。

4 ネットワーク機器の電源を入れます。

5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

LAN を使用する場合は、消費電力が大きいため、AC アダプタのご使用をお勧めします。

Point

- ▶ スタンバイ／休止状態の解除をお勧めします
LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスタンバイになるよう設定されていますので、前述のような不都合がある場合には、「スタンバイ／休止状態」－「スタンバイ／休止状態の設定変更」（→ P.36）をご覧ください。自動的にスタンバイにしない設定に変更してください。
- ▶ 省電力モードについて
有線 LAN 機能を使ってネットワーク（インターネットなど）に接続する場合は「省電力ユーティリティ」の「有線 LAN」の設定を「無効にする」にしたまま、省電力モードにしないでください。有線 LAN が使用できず、通信を行うことができません。詳しくは「省電力ユーティリティ」（→ P.38）をご覧ください。
- ▶ LAN ケーブルを取り外すときは
LAN コネクタから LAN ケーブルを取り外すときは、プラグのツメを押さえながら引き抜いてください。ツメを押さえずに無理に引き抜くと破損の原因となります。

続いてネットワークの設定をします。

ネットワークの設定をする

ネットワークへは、「TCP/IP の設定」と「フルコンピューター名とワークグループの確認」を行うことにより接続することができます。

■ TCP/IP の設定

Point

- ▶ TCP/IP の設定を変更する場合は、Windows に「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「ネットワークとインターネット接続」 ▶ 「ネットワーク接続」 の順にクリックします。
ネットワーク接続の一覧が表示されます。
- 2 一覧から「ローカルエリア接続」を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。
- 3 「この接続は次の項目を使用します」の一覧から、「インターネット プロトコル (TCP/IP)」をクリックし、「プロパティ」をクリックします。
他のプロトコルのネットワークに接続する場合は、お使いのネットワークにあわせて設定してください。
- 4 IP アドレスの設定をします。
 - ネットワーク上にブロードバンドルーターなどの DHCP サーバーがある場合
 1. 「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」が になっていることを確認します。
 になっている場合は、 をクリックして にします。

● ネットワーク上に DHCP サーバーがない場合

1. 「次の IP アドレスを使う」の○をクリックして●にします。
2. 「IP アドレス」に IP アドレスを入力します。
例：192.168.0.1
3. 「サブネットマスク」にサブネットマスクを入力します。
例：255.255.255.0

Point

- ▶ IP アドレスの重複にご注意ください
パソコン本体の IP アドレスをブロードバンドモデムやルーター、お使いのネットワーク上にある他のパソコンと重複しないように設定してください。IP アドレスが重複すると、ネットワークによる通信ができません。

- 5 「OK」をクリックします。
- 6 「OK」をクリックします。
- 7 画面右上の✖をクリックし、表示されているすべてのウィンドウを閉じます。

続いて、フルコンピューター名、ワークグループを確認します。

■ フルコンピューター名とワークグループの確認

Point

- ▶ フルコンピューター名、ワークグループを変更する場合は、Windows に「コンピューターの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1  (スタート) をクリックして表示されるメニューから「マイコンピュータ」を右クリックします。
- 2 表示されたメニューから「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 3 「コンピューター名」タブをクリックします。
- 4 「システムのプロパティ」ウィンドウで「変更」をクリックして、「フルコンピューター名」または「ワークグループ」を変更します。

● フルコンピューター名

ネットワーク上で、パソコンを識別するための名前です。設定するときは、他のパソコンと重複しないように、半角英数字 15 文字以内で名前を付けてください。機種名やパソコンの使用者名などをフルコンピューター名に設定すると、識別しやすくなります。

●ワークグループ

ネットワークにつながったパソコンの集まりを表します。複数のパソコンに共通のワークグループの名前を付けると、同じネットワークにつながっている「仲間」として、ネットワーク上でファイルやプリンターの共有が行えます。

ワークグループは、半角英数字 15 文字以内で好きな名前を付けることができます。通常、ネットワークを組むときは、各パソコンに同じワークグループを設定してください。

5 「OK」をクリックします。

再起動を確認するメッセージが表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

無線 LAN

無線 LAN でインターネットに接続する方法については、『取扱説明書』－「セットアップする」－「インターネットの設定をする」－「無線 LAN でインターネットに接続する」をご覧ください。

無線 LAN をお使いになるうえでの注意

ここでは、無線 LAN をお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

お使いのパソコンに搭載されている無線 LAN の種類をご確認ください。お使いの機種に搭載されている無線 LAN の種類は、『取扱説明書』の「仕様一覧」でご確認いただけます。

ここでは、無線 LAN の種類を次のように表記しています。

パソコンに搭載されている無線 LAN の種類	このマニュアルでの表記
「IEEE 802.11b/g 準拠」と「IEEE 802.11n 準拠」両方に対応した無線 LAN	「IEEE 802.11b/g/n 準拠の無線 LAN」

■ 無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線 LAN アクセスポイント（ワイヤレス LAN ステーション、ワイヤレスブロードバンドルーターなど）間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ・ ID やパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報
- ・ メールの内容

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
- ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN アクセスポイントやパソコンに搭載されている無線 LAN は、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みをもっています。

そのため、別途ご購入された無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品の、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。

しかし、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品は、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。

上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の種類

「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合は、5GHz 帯を利用した無線 LAN を使用できます。

5GHz 帯を利用した無線 LAN には、W52、W53、W56 という 3 種類のチャンネル（周波数帯）があります。これは、2007 年 1 月 31 日および 2005 年 5 月 16 日に総務省により発表された「電波法施行規則の一部を改正する省令」により、5GHz 帯のチャンネル（周波数帯）の変更と、新チャンネルの追加が行われたためです。

IEEE802.11b/g

IEEE802.11a

W52 W53 W56

Point

- ▶ アドホック通信の場合は
このパソコンのアドホック通信では、5GHz 帯を使用できません。
- ▶ 「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合は、IEEE 802.11n では、2.4GHz/5GHz 両方の周波数帯のチャンネルを使用します。

■ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、本製品の利用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前に本製品の使用許可について問い合わせをしてください。

■ 電波放射の人体への影響

このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

■ 無線 LAN による通信を行うための注意

- 「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合、電波法の定めにより W56 のチャンネルは屋外でご利用になれますが、W52、W53 のチャンネルは屋外でご利用になれません。このパソコンに内蔵の無線 LAN を 5GHz 帯でご利用になる場合、特定のチャンネルの電波の発信を停止することはできないため、屋外ではご利用になれません。
- このパソコンは、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご利用になると罰せられることがあります。
- 航空機内での使用は、各航空会社に事前にご確認ください。
- IEEE 802.11g と IEEE 802.11b が混在する環境では、IEEE 802.11g は IEEE 802.11b との互換性をとるため、IEEE 802.11g 本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g と IEEE 802.11b を別の無線 LAN ネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上空けてお使いください。
- このパソコンの使用時、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
無線 LAN アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。

- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できません）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・ このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・ 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・ 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任は負いません。
- 近くに他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器がある場合、干渉により本来の性能が出ない場合があります。この場合、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器と使用しているチャンネルの間隔を空けるように変更して、干渉の影響が最小となるチャンネルでお使いください。それでも解決しない場合は、他のチャンネルを使用している無線 LAN 機器から 3m 以上離して干渉の影響が最小となる場所でお使いください。

■ 良好な通信を行うために

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、次のとおりです。

無線 LAN の種類	推奨する最大通信距離
IEEE 802.11a 準拠	見通し半径 15m 以内
IEEE 802.11b、IEEE 802.11g 準拠	見通し半径 25m 以内
IEEE 802.11n 準拠	見通し半径 50m 以内

ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかつたり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用するチャンネルや使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- このパソコンの無線LANは、Bluetoothワイヤレステクノロジー機器と同じ周波数帯（2.4GHz 帯）を使用するため、パソコン本体の近辺で Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用すると電波干渉が発生し、通信速度の低下や接続不能になる場合があります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができます。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電源を切る。
(Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合や、単独で電源を切れないものを除く)
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の電波を、ユーティリティを使って停止する (Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を内蔵している場合)。
 - ・ 「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線 LAN」を搭載した機種をお使いの場合、無線 LAN の 5GHz 帯を利用する (ただし利用できるのは屋内のみ)。
- 「IEEE 802.11a/b/g/n 準拠の無線LAN」を搭載した機種をお使いの場合、5GHz 帯チャンネルの W53 (52 ~ 64ch)、W56 (100 ~ 140ch) では、無線 LAN アクセスポイントの DFS 機能が作動した場合、W53/W56 の通信はいったん切断されます。DFS 機能により、その無線 LAN アクセスポイントが再起動した場合は、W53/W56 以外のすべての通信もいったん切断されます。

無線 LAN の仕様

項目	仕様
ネットワーク種類	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠、IEEE 802.11n 準拠、(Wi-Fi® 準拠) [注 1]
転送レート	DS-SS : 11 ~ 1Mbps (自動切り替え) OFDM : 150 ~ 6Mbps (自動切り替え、40MHz 帯域幅システム / HT40 時)、 65 ~ 6Mbps (自動切り替え、20MHz 帯域幅システム / HT20 時)、 54 ~ 6Mbps (自動切り替え、レガシーモード時)
使用周波数	2,400MHz ~ 2,483.5MHz
チャンネル数 [注 7]	IEEE 802.11b 準拠: 1 ~ 13ch (DS-SS) (そのうち 1ch を使用) IEEE 802.11g 準拠: 1 ~ 13ch (OFDM) (そのうち 1ch を使用) IEEE 802.11n 準拠: 20MHz 帯域幅システム (HT20) (OFDM) (下記のうち 1ch を使用) 2.4GHz モード 1 ~ 13ch 40MHz 帯域幅システム (HT40) (OFDM) (下記のうち 1ch を使用) [注 2] [注 3] 2.4GHz モード [1, 5] / [2, 6] / [3, 7] / [4, 8] / [5, 9] / [6, 10] / [7, 11] ch [注 4]
セキュリティ	SSID (ネットワーク名) WEP (セキュリティキー (WEP キー) : 64/128 ビット) [注 5] WPA- パーソナル (WPA-PSK) (TKIP/AES) WPA2- パーソナル (WPA2-PSK) (TKIP/AES) WPA- エンタープライズ (WPA) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) WPA2- エンタープライズ (WPA2) (TLS/PEAP) (TKIP/AES) IEEE 802.1X (TLS/PEAP)
無線 LAN の最大接続推奨台数 (アドホック通信時)	10 台以下 [注 6]

注 1：Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示します。

注 2：IEEE 802.11n では 40MHz 帯域幅システム (HT40) に対応しています。HT40 を利用するには、無線 LAN アクセスポイントも HT40 に対応している必要があります。

注 3：IEEE 802.11n では無線 LAN アクセスポイントの設定において HT40 の機能を有効にする場合には、周囲の電波状況を確認して他の無線局に電波干渉を与えないことを事前に確認してください。万一、他の無線局において電波干渉が発生した場合には、ただちに HT40 の機能を無効にしてください。

注 4：[m, n] は、2 つの m および n チャンネルの周波数帯が 1 つにまとまったチャンネルを表します。

注 5：WEP による暗号化は上記ビット数で行いますが、ユーザーが設定可能なビット数は固定長 24 ビットを引いた 40 ビット / 104 ビットです。

注 6：IEEE 802.11n ではアドホック通信はできません。アドホック通信時は自動的にレガシーモード (IEEE 802.11b/IEEE 802.11g) で接続されます。また、お使いになる環境によっては接続可能台数が減少することがあります。

注 7：このパソコンに搭載されている無線 LAN の IEEE 802.11b では、無線チャンネルとしてチャンネル 1 ~ 13 を使用しています。

無線 LAN アクセスポイントのチャンネルを、1 ~ 13 の間で設定してください。設定方法については、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジー

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用する方法について説明しています。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは

Bluetooth ワイヤレステクノロジーとは、ヘッドセットやモデム、携帯電話などの周辺機器や他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載のパソコンなどに、ケーブルを使わず電波で接続できる技術です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特長

このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジーの主な特長は、次のとおりです。

- 出力 Class2、Bluetooth 無線規格 2.1 + EDR に準拠しています。Bluetooth 無線規格 2.1 + EDR およびそれ以前の規格に準拠した機器と接続が可能です。なお、すべての Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器に接続可能なことを保証するものではありません。
- 最大通信速度は 2.1 Mbps (Bluetooth 無線規格 2.1 + EDR の理論上の最大値) です。ただし、実際の通信速度はお使いの環境により異なります。

必要なものを用意する

- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器
Bluetooth ワイヤレステクノロジーを利用してパソコンと接続する機器です。Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器には次のようなものがあります。お使いになる目的に応じてご用意ください。
 - ・ キーボード
 - ・ マウス
 - ・ プリンター
 - ・ ヘッドセット
 - ・ 携帯電話
- Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアル
お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

重要

- ▶ ペ어링コード (PIN またはパスコード) について
パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器の接続 (ペ어링) 設定をするときには、機器によっては「ペ어링コード (PIN またはパスコード)」が必要になる場合があります。「ペ어링コード (PIN またはパスコード)」については、後述の「Bluetooth ユーティリティユーザズガイド」および Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルをご覧ください。
- ▶ プロファイルについて
Bluetooth ワイヤレステクノロジーには「プロファイル」という仕様があり、同じプロファイルをもつ Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器どうしを接続し、そのプロファイルの機能を使用することができます。
このパソコンには、このパソコンがサポートしているプロファイルに対応した Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を使用することができます。このパソコンがサポートしているプロファイルについては「Bluetooth ユーティリティユーザズガイド」をご覧ください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使うための設定をする

パソコンと Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を接続するためには、「Bluetooth ユーティリティ」を使用します。

「Bluetooth ユーティリティ」の使用方法については、「Bluetooth ユーティリティ ユーザーズガイド」をご覧ください。

「Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド」は  スタート (スタート) ▶ 「すべてのプログラム」 ▶ 「Bluetooth」 ▶ 「ユーザーズガイド」の順にクリックして表示します。

また、お使いになる Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器によって設定方法が異なる場合があります。必ず Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器のマニュアルもご覧ください。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を発信する／停止する

パソコンに搭載されている Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を発信／停止する方法について説明します。

病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、あらかじめ Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波を停止してください。

パソコン本体の「ワイヤレススイッチ」を使っでの、電波の発信／停止の一覧は次のようになります。

ワイヤレススイッチの状態	Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波発信状態
オン ^[注]	○発信
オフ	×停止

注：ユーティリティの設定が、「Bluetooth オフ」になっていると、ワイヤレススイッチの状態が「オン」のときでも、電波発信は「停止」状態になります。

Point

- ▶ ユーティリティで「Bluetooth オフ」にしている場合は、「Bluetooth オン」にしてください。
- ▶ 省電力モードで Bluetooth ワイヤレステクノロジーを無効にする設定にしている場合は、通常モードにしてください。

□ワイヤレススイッチで電波を発信／停止する

ワイヤレススイッチの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

- 1 パソコン本体のワイヤレススイッチを矢印の方向にスライドして、電波を発信します。



(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波の発信を開始します。

- 2 パソコン本体のワイヤレススイッチを矢印の方向にスライドして、電波を停止します。



Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が停止します。

Point

- ▶ ワイヤレススイッチで電波を停止した場合、無線 LAN の電波も、同時に停止されます。

□ユーティリティで電波を発信／停止する

パソコン本体のワイヤレススイッチが ON になっている状態で、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波だけを切り替えます。

- 1 画面右下の通知領域にある Bluetooth アイコン  を右クリックし、表示されるメニューから「Bluetooth オン」をクリックして、電波を発信します。
- 2 画面右下の通知領域にある Bluetooth アイコン  を右クリックし、表示されるメニューから「Bluetooth オフ」をクリックして、電波を停止します。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえでの注意

ここでは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーをお使いになるうえで注意していただきたいことについて説明しています。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーご使用時におけるセキュリティに関する注意

重要

▶ お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です。

Bluetooth ワイヤレステクノロジーでは、電波を利用して周辺機器や他のパソコンとの間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁など）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワード、その他の個人情報などの通信内容を盗み見る可能性があります。
- 不正に使用される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内の周辺機器やパソコンへアクセスし、次の行為をされてしまうおそれがあります。
 - ・ 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
 - ・ 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
 - ・ 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
 - ・ コンピューターウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

このパソコンおよび一部の周辺機器や他のパソコンに内蔵されているBluetooth ワイヤレステクノロジーは、これらの問題に対応するためのセキュリティのしくみをもっています。

そのため、別途ご購入された Bluetooth ワイヤレステクノロジー搭載の周辺機器や他のパソコンがセキュリティのしくみをもっている場合、セキュリティに関する設定を正しく行うことで、これらの問題が発生する可能性を少なくすることができます。しかし、Bluetooth ワイヤレステクノロジー内蔵の周辺機器や他のパソコンは、ご購入時の状態ではセキュリティに関する設定が施されていない場合があります。上記のようなセキュリティ問題が発生する可能性を少なくするためには、周辺機器や他のパソコンに添付されている取扱説明書に従い、これらの製品のセキュリティに関するすべての設定を必ず行ってください。

なお、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解のうえ、ご使用ください。

セキュリティの設定などについて、お客様ご自身で対処できない場合には、「富士通 パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解したうえで、お客様ご自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお勧めします。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生した場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ Bluetooth ワイヤレステクノロジーによる通信を行うための注意

- パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径10m以内（出力 Class2 の最大値）です。
ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況などの使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。

- このパソコンの Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナは、パソコン本体に内蔵されています。このパソコンの使用時、特に Bluetooth ワイヤレステクノロジーの通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。通信性能が低下する場合があります。
また、このパソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
Bluetooth ワイヤレステクノロジー用アンテナの場所については、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。
- パソコン本体は、他の電気機器から離して設置してください。パソコン本体と電源が入った電気機器を近づけていると、正常に通信できなかつたり、電気機器の障害になったりすることがあります。正常に通信できない場合は、使用場所を変更してください。特に、電子レンジなどの強い高周波エネルギーを出す機器の使用時は、影響を受けやすく、正常に通信できないことがあります。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、パソコン本体の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎると、正常に通信できないことがあります。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーは IEEE 802.11b、IEEE 802.11g や IEEE 802.11n の 2.4GHz 帯規格の無線 LAN と同じ周波数帯の電波を使用します。そのため、ご使用の状態によっては無線 LAN と Bluetooth ワイヤレステクノロジーの電波が干渉し、他のパソコンなどとの通信速度が低下したり、Bluetooth ワイヤレステクノロジーで接続したワイヤレスヘッドホンなどの音質が悪くなったりする場合があります。
- 無線 LAN 機器との電波干渉を防ぐには、次の対策を行うと、電波の干渉を防ぐことができる場合があります。
 - ・無線 LAN 機器とパソコン本体との間は 10m 以上離して使用する。
 - ・無線 LAN 機器の電源を切る。
 - ・無線 LAN 機器の電波を、ユーティリティを使って停止する。
 - ・無線 LAN の 5GHz 帯を利用する（ただし利用できるのは屋内のみ）。
- このパソコンに USB アダプタ型などの他の Bluetooth ワイヤレステクノロジー機器を取り付けて、同時に使用しないでください。

■ 電波放射の環境への影響

- このパソコンは、他の高周波デバイス同様に、高周波エネルギーを放出していますが、このパソコンが放出するエネルギーのレベルは、例えば携帯電話のような無線デバイスが放出する電磁エネルギーよりはるかに低く抑えられています。
- このパソコンは、高周波安全基準および勧告のガイドライン内で動作するため、このパソコンの使用者に対し、安全性を確信しています。本基準および勧告は、科学界の統一見解を反映しており、研究班の審議および広範な研究文献を継続的に調査し解釈する科学者たちの委員会を根本としています。
- ある状況や環境において、このパソコンの使用は、建物の所有者や団体の責任ある代表者により制限されることがあります。例えば、下記にあげる場合です。
 - ・他のデバイスやサービスに対し干渉の危険がある環境での使用
- 特定の団体や環境（例えば空港）で無線デバイスの使用に適用される方針が明確にわからない場合は、機器の電源を入れる前にこのパソコンの使用許可について問い合わせをしてください。

■ 電波放射の人体への影響

- このパソコンから放射される出力パワーは、例えば携帯電話が放射する電波のレベルよりはるかに低くなっています。それでも、このパソコンは、通常の動作中に人間の接触に対し電位が最小限にとどめられるように使用されなくてはなりません。使用中はこのパソコンのアンテナ部分に極力触れないでください。

■ 干渉に関する注意

- このマニュアルに従わずに設定したり使用したりすると、無線通信に有害な干渉を生じることがあります。
- このパソコンがラジオ、テレビの受信機に有害な干渉を与える原因となっている場合は（このパソコンの電源を入／切することで原因となっているかが判別できません）、次の方法で干渉を取り除くようにしてください。
 - ・ このパソコンと受信機の距離を離す
 - ・ 受信機を接続しているコンセントと別系統回路のコンセントにこのパソコンを接続する
 - ・ 経験のあるラジオ／テレビ技術者に相談する
- このパソコンの不正な改造は行わないでください。不正な改造により発生した、ラジオやテレビへの干渉についての責任を負いません。

4. スタンバイ／休止状態

スタンバイ／休止状態とは

このパソコンは、Windows を終了することなく消費電力を抑えることができるように、省電力機能を使うことができます。

省電力機能には、次のような機能があります。

- パソコンがバッテリーで動作するときは、AC アダプタで動作しているときよりも液晶ディスプレイを暗めに調整する。
- 一定時間パソコンを操作しないと、スタンバイや休止状態に切り替わり消費電力を節約する。
- 省電力モードで消費電力を節約する。
省電力モードについては、「省電力ユーティリティ」(→ P.38) をご覧ください。

スタンバイ／休止状態へ切り替える操作については、『取扱説明書』－「取り扱い」－「電源を入れる／切る」－「スタンバイにする／復帰させる」をご覧ください。

スタンバイ

パソコンの電源を切らずに、作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを待機状態にすることです。スタンバイ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。ご購入時の設定では、スタンバイしてから一定時間経過するか、バッテリーの残量が少なくなると、データなどの保存先をメモリからハードディスクに切り替えて、パソコンの電源を切るようになっています。

休止状態

作業中のデータなどをハードディスクに保存して、パソコン本体の電源を切ることです。そのため、スタンバイよりも待機状態にしたり復帰（レジューム）したりするための時間が長くなりますが、消費電力は削減されます。

スタンバイ／休止状態にするうえでの注意

- パソコンをお使いの状況によっては、スタンバイや休止、レジュームに時間がかかる場合があります。
- スタンバイまたは休止状態にした後、すぐにレジュームしないでください。必ず、10 秒以上たってからレジュームするようにしてください。
- 接続している周辺機器のドライバーが正しくインストールされていない場合、スタンバイや休止状態にならないことがあります。
- スタンバイや休止、レジュームのときに、画面に一瞬ノイズが発生する場合がありますが、故障ではありません。
- ネットワーク（インターネットなど）に接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワーク（インターネットなど）への接続が正常に行われない場合があります。
なお、ご購入時の状態では、一定時間パソコンを操作しないとスタンバイになるように設定されています。「電源オプション」ウィンドウで、設定の変更を行ってください。
- スタンバイ中は、周辺機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- 周辺機器を接続した状態で休止状態にすると、レジュームするときに周辺機器の情報が初期化されるため、休止状態にする前の作業状態に戻らないことがあります。
- 次の場合は、スタンバイや休止状態にしないでください。
 - ・ OS の起動処理中または終了処理中
 - ・ パソコンが何か処理をしている最中（プリンター出力中など）、および処理完了直後
 - ・ ハードディスクにアクセス中
 - ・ オートラン CD-ROM/DVD-ROM(セットすると自動で始まる CD-ROM/DVD-ROM) を使用中
 - ・ ビデオ CD や Blu-ray Disc、DVD-VIDEO などを再生中
 - ・ 音楽 CD やゲームソフトなどのサウンドを再生中

- ・ ディスクにデータを書き込みまたは書き換え中
- ・ ドライバーのインストールが必要な周辺機器を取り付けて、ドライバーをインストールしているとき
- ・ マルチモニター機能を使用中
- ・ ネットワークに接続して通信中

スタンバイ／休止状態の設定変更

ご購入時には、一定時間パソコンを操作しないと自動的に「スタンバイ」になるように設定されています。

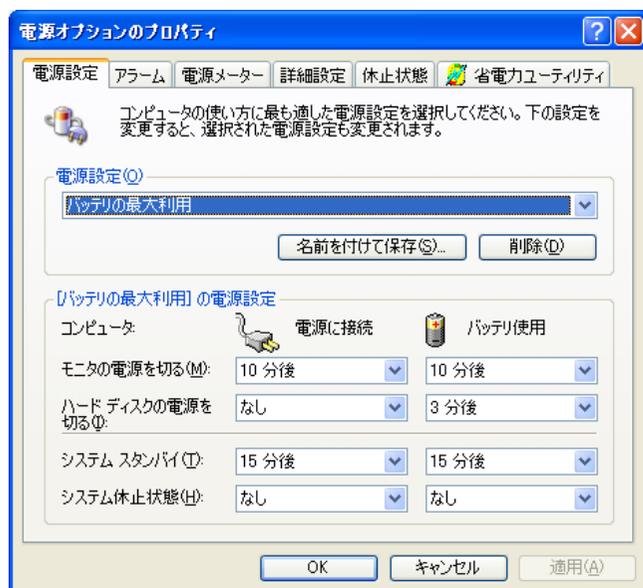
ここでは、省電力機能が働くまでの時間などを変更する方法を説明しています。ディスクにデータを書き込むときや、LAN を使用するときなど、必要に応じて設定を変更してください。

省電力機能の設定を変更する

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「パフォーマンスとメンテナンス」 ▶ 「電源オプション」 の順にクリックします。

「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。

- 2 お使いの状況に合わせて、各タブで設定を変更し、「適用」をクリックしてください。



- 3  をクリックします。

重要

- ▶ ネットワークをお使いになるときは、次の設定を行い、省電力機能が働かないようにすることをお勧めします。省電力機能が働いてしまうと、他の装置からアクセスできなくなることがあります。「電源設定」タブの「システムスタンバイ」、「システム休止状態」を「なし」にします。また、「詳細設定」タブの「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「何もしない」にします。

スタンバイになるまでの時間を変更する

スタンバイになるまでの時間は、次の手順で変更することができます。

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「パフォーマンスとメンテナンス」 ▶ 「電源オプション」 の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「電源設定」 タブをクリックします。
- 3 「システムスタンバイ」 の  をクリックして表示されるメニューから時間を選択します。
- 4 「適用」 をクリックします。

電源ボタンを押したときと、液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態になるように変更する

パソコン本体の電源ボタンを押したときや、液晶ディスプレイを閉じたときに働く省電力機能は、次の手順で変更することができます。

- 1  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「パフォーマンスとメンテナンス」 ▶ 「電源オプション」 の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 2 「詳細設定」 タブをクリックします。
- 3 電源ボタンの  をクリックして表示されるメニューから「休止状態」を選びます。
 - ・「ポータブルコンピュータを閉じたとき」：液晶ディスプレイを閉じたとき
 - ・「コンピュータの電源ボタンを押したとき」：電源ボタンを押したとき
- 4 「適用」 をクリックします。

5. 省電力ユーティリティ

省電力ユーティリティとは

「省電力ユーティリティ」とは、パソコンを、本体の動作を中断させずに一部の機能の使用を制限して消費電力を抑える「省電力モード」で使用できるようにするためのソフトウェアです。

ここでは、このパソコンで使える「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードについて説明しています。

省電力モード

Windows が起動しているときに、「省電力ユーティリティ」を使った省電力モードにすることで、消費電力を節約することができます。省電力モードは、スタンバイや休止状態とは異なり、パソコン本体の動作を中断させません。そのため、パソコンの消費電力はスタンバイや休止状態ほどは節約できません。

省電力モードでは次の機能により消費電力が節約されます。

- オーディオをミュートにする。
- 液晶ディスプレイの明るさを変更する。
- LAN（有線 LAN）を使用できなくする。
- 無線 LAN を使用できなくする。
- Bluetooth ワイヤレステクノロジーを使用できなくする。
- ダイレクト・メモリースロットを使用できなくする。
- 画面のリフレッシュレートを低くする。

省電力モードにするうえでの注意

- 省電力モードにすると次の機能が使用できなくなります。
省電力モードにする前にそれぞれの機能の使用を中止してください。
 - ・ オーディオ
 - ・ LAN（有線 LAN）
 - ・ 無線 LAN
 - ・ Bluetooth ワイヤレステクノロジー
 - ・ ダイレクト・メモリースロット
- 省電力モードにする前に、マルチモニター表示を解除してシングルディスプレイ表示に切り替えてください。
- 省電力モードにするとオーディオをミュートにする設定になっている場合は、省電力モードの間はスピーカーから音が聞こえません（ミュートになっています）。
- 省電力モードにすると画面の明るさが「省電力ユーティリティ」で設定された状態になります。
省電力モードに設定後も【Fn】 + 【|】キー / 【Fn】 + 【|】キーを押すことで調整ができます。
- 省電力モードにするとリフレッシュレートを変更する設定になっている場合は、「省電力ユーティリティ」で設定された状態になります。
省電力モードに設定後も「コントロールパネル」の「画面の設定」で変更することができます。

重要

- ▶ 省電力モードの状態確認は、画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」のアイコンを確認することでわかります。省電力モードのときは、アイコンがカラーになります。

省電力モードの使い方

省電力モードに切り替える

■ Eco ボタンを使う

1 Windows が起動しているときに Eco ボタンを押します。

Eco ボタンの場所について、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

「省電力モードへの切り替え」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。

このパソコンが省電力モードになります。

■ 「省電力ユーティリティ」アイコンを使う

1 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「モードの切り替え」を選択してクリックします。

「省電力モードへの切り替え」ウィンドウが表示されます。

2 「OK」をクリックします。

画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」のアイコンがカラーになり、このパソコンが省電力モードになります。

通常モードに切り替える

■ Eco ボタンを使う

1 省電力モードのときに Eco ボタンを押します。

Eco ボタンの場所について、『取扱説明書』－「各部の名称と働き」をご覧ください。

「通常モードへの切り替え」ウィンドウが表示された場合は、「OK」をクリックします。

通常モードに戻ります。

■ 「省電力ユーティリティ」アイコンを使う

1 画面右下の通知領域にある「省電力ユーティリティ」のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「モードの切り替え」を選択してクリックします。

「通常モードへの切り替え」ウィンドウが表示されます。

2 「OK」をクリックします。

通常モードに戻ります。

省電力モードの設定変更

省電力モードの設定を変更することができます。

設定方法について、詳しくは「省電力ユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

省電力ユーティリティのヘルプは、 (スタート) ▶ 「すべてのプログラム」 ▶ 「省電力ユーティリティ」 ▶ 「ヘルプ」の順にクリックして表示します。

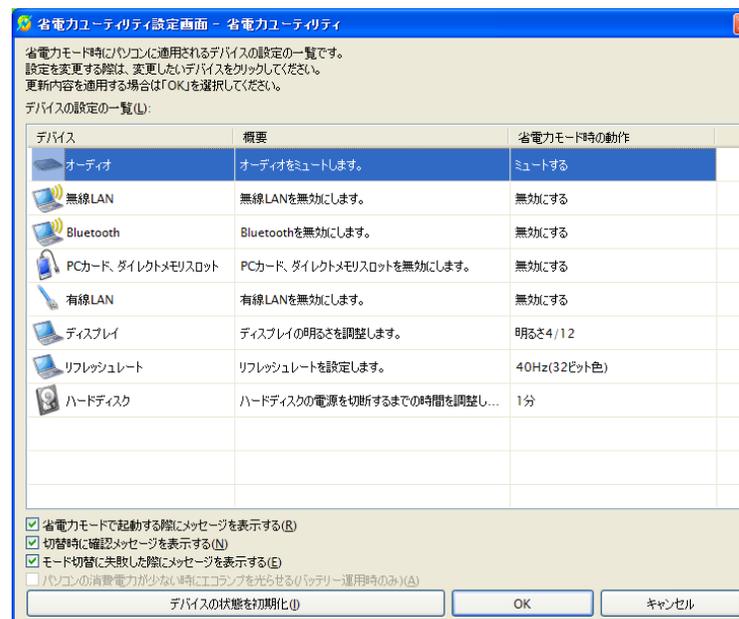
省電力モードの設定を変更する

省電力モードの設定は、「省電力ユーティリティ」の設定画面で行います。

-  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「パフォーマンスとメンテナンス」 ▶ 「電源オプション」の順にクリックします。
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 「省電力ユーティリティ」タブをクリックします。

- 「設定を変更」をクリックします。

「省電力ユーティリティ」の設定画面が表示されます。



(画面は機種や状況により異なります)

次の設定も変更できます。

- ・「省電力モードで起動する際にメッセージを表示する」
 を にすると、省電力モードのまま Windows の電源を切って再び Windows を起動したときに、メッセージを表示します。
- ・「切替時に確認メッセージを表示する」
 を にすると、省電力モードと通常モードの切り替えのときに、メッセージを表示します。
- ・「モード切替に失敗した際にメッセージを表示する」
 を にすると、省電力モードと通常モードの切り替えに失敗した場合、メッセージを表示します。
- ・「デバイスの状態を初期化」ボタン
 「省電力ユーティリティ」の省電力モード時の動作設定を、ご購入時の状態に戻します。

- 4 設定を変更したいデバイスをクリックして、省電力モード時の動作の設定を変更します。
- 5 「OK」をクリックします。

6. ソフトウェア

ソフトウェアをインストール／アンインストールするうえでの注意

このパソコンには、あらかじめたくさんのソフトウェアがインストールされています。お使いいただくうちに、インストールされていたソフトウェアを削除したかももう一度使いたくなったり、ソフトウェアの動きがおかしくなったりした場合には、「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」からソフトウェアをインストールする必要があります。



- ▶ USB接続の外付けドライブを接続して、ディスクをセットしてください。

ソフトウェアをインストール／アンインストールする場合は、次の点に注意してください。

- ソフトウェアをインストールする前には、必ずソフトウェアのマニュアルなどを読んで、インストールの方法を確認する
- インストールし直す場合は、元のソフトウェアを削除する
- 管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンする
ユーザーアカウントの種類が、「標準アカウント」、「Guest アカウント」の場合はソフトウェアの削除ができません。管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンしてください。
ユーザーアカウントの種類は、次の手順で確認できます。
 1.  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「ユーザーアカウント」の順にクリックします。
 2. 「ユーザーアカウント」をクリックします。
「ユーザーアカウント」ウィンドウが表示されます。
 3. 画面右のアカウント名の下に表示されている、アカウントの種類を確認します。

- 起動しているソフトウェアをすべて終了する
他のソフトウェアが起動していると、エラーが発生する場合があります。ソフトウェアの削除をする前に、次の作業を行ってください。
 - ・ 起動しているソフトウェアをすべて終了する
 - ・ タスクバーに常駐するタイプのソフトウェアをすべて終了する
 - ・ スクリーンセーバーを「なし」に設定する
 1. デスクトップの何も無いところを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。
 2. 「画面のプロパティ」ウィンドウで、「スクリーンセーバー」タブをクリックし、「スクリーンセーバー」を「なし」にします。
- 共有ファイルは削除しない
ソフトウェアの削除中に、「共有ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されることがあります。
共有ファイルは削除しないことをお勧めします。共有ファイルを削除すると、インストールされている他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。

インストール

搭載ソフトウェアを「ソフトウェアディスク検索」でインストールする

④「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」に収録されているソフトウェアは、「ソフトウェアディスク検索」からインストールすることができます。

Point

- ▶ 外付けの CD/DVD ドライブに④「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」をセットして、ソフトウェアをインストールしてください。

1 ④「トラブル解決ナビ & ソフトウェアディスク」を、外付けの CD/DVD ドライブにセットします。

「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。

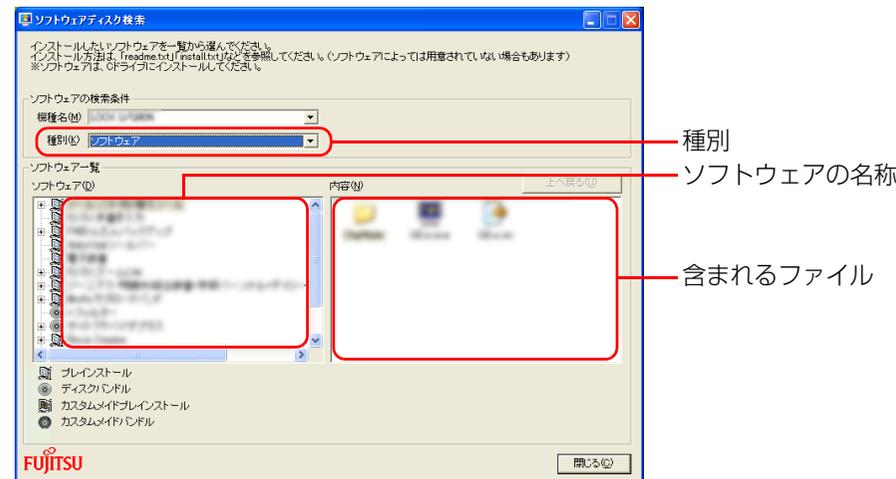
2 「機種名」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。

3 「種別」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストから「ソフトウェア」をクリックして選択します。

「ソフトウェア一覧」に、ソフトウェア名が表示されます。

4 「ソフトウェア一覧」でインストールするソフトウェアの名称をクリックしてインストールします。

ソフトウェアの名称をクリックすると、ソフトウェアに含まれるファイルが画面右側に表示されます。



(画面は機種や状況により異なります)

5 ソフトウェアのインストール方法は、各ソフトウェアによって異なります。それぞれの「readme.txt」、「install.txt」などでインストール方法を確認してください。

「Office 2007」をインストールする

「Office 2007」搭載機種をお使いの方は、添付のディスクから次のディスクを用意してインストールしてください。

- ◎「Office Personal 2007」

インストール中にプロダクトキーとライセンス認証が必要になります。認証手順については、パッケージに同梱されているマニュアルをご覧ください。

「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」からドライバーをインストールする

サウンドの再生や画面表示などが正常に行われなとき、ドライバーを更新すると問題が解決できる場合があります。添付の◎「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」に格納されているドライバーの場合、現在のドライバーをアンインストールして◎「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」からインストールし直すことで問題が解決できることがあります。

ドライバーの削除や、再インストール手順については、各ドライバーのフォルダー内にある「readme.txt」「install.txt」などのファイルをご覧ください。

ドライバーの格納されているフォルダーは、次の手順でご確認ください。

- 1 ◎「トラブル解決ナビ&ソフトウェアディスク」を外付けのCD/DVDドライブにセットします。
「ソフトウェアディスク検索」ウィンドウが表示されます。
- 2 「機種名」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストからお使いの機種名（品名）をクリックして選択します。
- 3 「種別」欄の右側の▼をクリックし、表示されたリストから更新したいドライバーの種類をクリックして選択します。
「ソフトウェア一覧」に、選択した種別のドライバーが表示されます。

- 4 「ソフトウェア一覧」から更新したいドライバーをクリックして選択します。

選択したドライバーの格納されているフォルダーの内容が表示されます。

Point

- ▶ インターネットに接続してドライバーを更新する
各ドライバーは、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。ご購入時に添付されているものよりも新しいバージョンのドライバーがインターネット上で公開されている場合があります。
 - ・「アップデートナビ」で最新のドライバーを確認する
お使いのパソコンに搭載されているドライバーなどの最新情報は、「アップデートナビ」で確認することができます。更新情報の確認後、そのままインストールすることもできるので便利です。
 - ・ホームページで最新のドライバーを確認する
ドライバーなどの最新情報は、サポートページ (<http://azby.fmworld.net/support/>) の「ダウンロード」をご覧ください。
- ▶ このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについて
プリンターなど、このパソコンに添付されていない周辺機器のドライバーについては、お使いの周辺機器のマニュアルをご覧ください。

アンインストール

ソフトウェアのアンインストール機能を使う

Windows に対応したソフトウェアには、アンインストール機能（ソフトウェアを削除する機能）が用意されているものがあります。ソフトウェアによって操作方法が異なります。詳しくは、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。

「プログラムのアンインストール」機能を使う

「コントロールパネル」にある「プログラムのアンインストール」機能で、ソフトウェアを削除できます。削除方法は次のとおりです。

- 1 起動しているソフトウェアをすべて終了します。
- 2  (スタート) ▶ 「コントロールパネル」 ▶ 「プログラムの追加と削除」の順にクリックします。
- 3 一覧から削除したい項目をクリックします。
- 4 「変更と削除」（または「削除」）をクリックし、画面の指示に従ってソフトウェアを削除します。
- 5 ソフトウェアの削除が終了したら、「プログラムの追加と削除」ウィンドウで、 をクリックします。

Point

- ▶ 「プログラムの追加と削除」機能で削除できないソフトウェアについては、ソフトウェアのマニュアルまたはヘルプをご覧ください。
- ▶ 「いくつかのファイルは削除されませんでした」と表示されても、削除が完了していれば通常問題ありません。

ソフトウェアを削除した後に

■ 削除したソフトウェア名がメニューに残った場合

削除しても、 (スタート) ▶ 「すべてのプログラム」で表示されるメニューの中に削除したソフトウェア名が残り、ポイントすると「(なし)」と表示される場合があります。ソフトウェア名を右クリックし、表示されるメニューから「削除」をクリックして、「はい」をクリックするとメニューから削除できます。

■ パソコンを起動するたびにエラーが表示されるときは

ソフトウェアを削除しても、「スタートアップ」フォルダーに、そのソフトウェアのショートカットアイコンが登録されたままになっていると、「ショートカットエラー」というメッセージが表示されることがあります。

次の手順で、「スタートアップ」フォルダーから、該当するショートカットアイコンを削除してください。

- 1  (スタート) を右クリックし、表示されるメニューから「開く - All Users」をクリックします。
「スタート メニュー」ウィンドウが表示されます。
- 2  (プログラム) をクリックします。
「プログラム」ウィンドウが表示されます。
- 3 「プログラム」ウィンドウの  (スタートアップ) をクリックします。
登録されているソフトウェアの一覧が表示されます。
- 4 削除したいソフトウェアのショートカットアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「削除」をクリックします。

7. BIOS の設定

BIOS セットアップの操作

BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、パソコンの環境を設定するためのプログラムです。パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけがパソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 起動時の自己診断テストで BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

Point

- ▶ BIOS セットアップの設定項目については、BIOS セットアップ画面の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト（POST（ポスト））
パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」（POST：Power On Self Test）といいます。
 - ・ 起動時の自己診断テスト中は電源を切らないでください
 - ・ POST の画面は、液晶ディスプレイのみに表示されることがあります。
 - ・ パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップは、電源が切れた状態から操作を始めてください。

- 1 AC アダプタを接続し、パソコンの電源を入れます。
- 2 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下にメッセージが表示されます。

メッセージが表示されている間に【F2】キーを押します（【Enter】キーを押し、表示されたポップアップメニューから「BIOS セットアップ」を選択して、もう一度【Enter】キーを押しても同じです）。

BIOS セットアップ画面が表示されます。BIOS セットアップの画面ではなく Windows が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 1 からやり直してください。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。ここでは、「システム」メニューの画面を例に説明しています。

The screenshot shows the BIOS Setup Utility 'System' menu. The menu items are: システム時刻 (System Time), システム日付 (System Date), ドライブ0 (Drive 0), ドライブ1 (Drive 1), and 言語 (Language). The 'Language' item is currently selected and shows '日本語 (JP)'. A '項目ヘルプ' (Item Help) window is open on the right, displaying instructions for navigating the menu using arrow keys, Tab, Enter, and Shift-Tab. Red lines and text labels point to various parts of the screen: 'メニューバー' (Menu Bar) points to the top bar; 'メニューの名称が表示されます。カーソル' (Menu names are displayed. Cursor) points to the menu items; '設定する項目に合わせます。' (Align with the item to be set.) points to the '項目ヘルプ' window; '項目ヘルプ' (Item Help) points to the help text; 'カーソル' (Cursor) points to the cursor position; '設定フィールド' (Setting Field) points to the value '日本語 (JP)'; '各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。' (Item name and setting value to be set in each menu are displayed.) points to the menu item and its value; 'キー一覧' (Key List) points to the bottom bar; '設定時に使うキーの一覧です。' (List of keys used during setting.) points to the key list.

メニューバー
メニューの名称が表示されます。
カーソル
設定する項目に合わせます。

項目ヘルプ
カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。

設定フィールド
各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。

キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

(画面は機種や状況により異なります)

設定を変更する

設定の変更はキーボードで操作します。

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定は正確に行ってください
設定を間違えると、パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなったりすることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻してパソコンを再起動してください。

1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。

選択したメニュー画面が表示されます。

2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。

項目名にカーソルを移動して【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。元のメニュー画面に戻るときは【Esc】キーを押します。

3 【Space】キーまたは \square を押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順 1 ～ 3 を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

Point

- ▶ 設定時に使う各キーの役割
設定時によく使用するキーは、次のとおりです。
 - ・【↑】キー、【↓】キー
設定する項目にカーソルを移動します。
 - ・【←】キー、【→】キー
メニューを切り替えます。
 - ・【Enter】キー
「▶」印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。
設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
 - ・【Space】キー
キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーのことです。各項目の設定値を変更します。
この他、使用するキーの案内が画面に表示されます。

変更内容を取り消す

設定した内容を取り消すには、保存してある変更前の設定値を読み込みます。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示しているときは、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを2～3回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更前の値を読み込む」(「Discard Changes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

「変更前の値を読み込みますか？」というメッセージが表示されます。

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」(「Yes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS セットアップのすべての設定項目に変更前の値が読み込まれ、すべての変更が取り消されます。

Point

▶ 設定した内容を保存せずに BIOS セットアップを終了する

1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存せずに終了する」(「Exit Discarding Changes」)を選択し、【Enter】キーを押します。
設定値を変更していないときは、これで BIOS セットアップが終了します。

設定値を変更しているときは、「設定が変更されています！変更した内容を保存して終了しますか？」(「Setup Warning」)というメッセージが表示されます。

2. 【←】キーまたは【→】キーで「いいえ」(「No」)を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての変更が取り消されて、BIOS セットアップが終了します。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を保存しておく必要があります。次の操作を行って、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 【Esc】キーを押します。

「終了」メニューが表示されます。サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、【Esc】キーを2～3回押してください。

2 【↑】キーまたは【↓】キーを押して「変更を保存して終了する」(「Exit Saving Changes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

確認のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
【はい】	【いいえ】

3 【←】キーまたは【→】キーで「はい」(「Yes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

Point

▶ BIOS セットアップを終了せずに設定内容を保存する

次の操作をすると、いったん設定内容を保存した後、続けて他の項目を設定できます。

1. 「終了」(「Exit」)メニューの「変更を保存する」(「Save Changes」)を選択し、【Enter】キーを押します。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
2. 【←】キーまたは【→】キーで「はい」(「Yes」)を選択し、【Enter】キーを押します。

BIOS をご購入時の設定に戻す

ここでは、設定を変更した BIOS を、ご購入時の状態に戻す手順について説明しています。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
- 2 【Esc】 キーを押します。**
「終了」(「Exit」)メニューが表示されます。
- 3 【↑】 キーまたは【↓】 キーを押して「標準設定値を読み込む」(「Load Setup Defaults」) を選択し、【Enter】 キーを押します。**
確認のメッセージが表示されます。
- 4 【←】 キーまたは【→】 キーで「はい」(「Yes」) を選択し、【Enter】 キーを押します。**
BIOS セットアップの設定項目に、標準設定値が読み込まれます。
- 5 【↑】 キーまたは【↓】 キーを押して「変更を保存して終了する」(「Save Changes」) を選択し、【Enter】 キーを押します。**
確認のメッセージが表示されます。
- 6 【←】 キーまたは【→】 キーで「はい」(「Yes」) を選択し、【Enter】 キーを押します。**
読み込んだ標準設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、このパソコンが再起動します。

BIOS のパスワード機能

このパソコンでは、不正使用を防止するために BIOS パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外はこのパソコンを使用できなくなります。

BIOS のパスワードは Windows が起動する前の設定なので、Windows のログインパスワードよりもさらにセキュリティを高めたいときに有効です。

BIOS のパスワードを設定するとできること

BIOS のパスワードを設定すると、次の場合にパスワードの入力を要求され、パスワードを知っている人のみこのパソコンを使用できるようになります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

また、ハードディスク用のパスワードを設定すると、このパソコンのハードディスクを他のパソコンに取り付けても使用できないようにすることができます。

BIOS パスワード機能をお使いになるうえでの注意

このパソコンの BIOS パスワード機能を使うときは、次の点に注意してください。

- パスワード設定時に必ず行うこと
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
 - ・設定したパスワードを忘れないよう、書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- パスワードを忘れるとすべてのデータが消えてしまいます
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除やハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。パスワードの管理には充分注意してください。

パスワードの種類

このパソコンで設定できるパスワードは次の3つです。

- 管理者用パスワード (Supervisor Password)
このパソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード (User Password)
「管理者」以外でこのパソコンをお使いになる方（ご家族など）が使用するパスワードです。BIOS セットアップで変更可能な項目に制限があります。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。
- ハードディスク用パスワード
このパソコンのハードディスクを、他のパソコンでは使用できないようにしたいときに使用するパスワードです。ハードディスクを他のパソコンに取り付けて使用する場合に認証が必要となるため、ハードディスクが盗難にあったときなどに情報漏洩や不正使用を防止します。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

管理者用パスワード／ユーザー用パスワード、ハードディスク用パスワードを設定する方法を説明します。

■ 管理者用パスワード／ユーザー用パスワードを設定する

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「管理者用パスワード設定」(「Set Supervisor Password」)、または「ユーザー用パスワード設定」(「Set User Password」) を選択して【Enter】キーを押します。パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 パスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」で設定することができます。
- 4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
パスワードの再入力を求められます。
- 5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。「セットアップ通知」(「Setup Notice」) と書かれたウィンドウが表示されるか、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

- 6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」) と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。
- 7 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「起動時のパスワード」(「Password on Boot」) を「使用しない」(「Disabled」) 以外に設定します。
パソコンを起動したときに、BIOS のパスワードを求めるウィンドウが表示される設定になります。

■ ハードディスク用パスワードを設定する

- 1 BIOS セットアップを起動します。
- 2 「セキュリティ」(「Security」) メニューの「ハードディスクセキュリティ」→「ドライブ 0 用パスワード設定」を選択して【Enter】キーを押します。
パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 パスワードを入力します。
入力できる文字種はアルファベットと数字です。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」や「*」が表示されます。
- 4 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。
パスワードの再入力を求められます。
- 5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。「セットアップ通知」(「Setup Notice」) と書かれたウィンドウか、「変更が保存されました。」というメッセージが表示されます。

6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」)と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。【Enter】キーを押して、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーを押してください。

パスワード機能を使う

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力が必要になります。

- パソコンの電源を入れたとき
- パソコンを再起動したとき
- BIOS セットアップを始めるとき
- 休止状態からレジュームするとき

パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

- 設定したパスワードと違うパスワードを入力すると、「パスワードが間違っています。どれかキーを押してください。」というメッセージが表示されます。その場合は、【Enter】キーを押し、正しいパスワードを入力してください。
- 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません。」(「System Disabled」)というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、パソコン電源ボタンを押してパソコンの電源を切ってから10秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パソコンの電源を入れたときなどのパスワード入力

パソコンの電源を入れたときやパソコンを再起動したとき、BIOS セットアップを始めるとき、休止状態からレジュームするときには、パスワードの入力を求めるウィンドウが表示されます。パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。

- BIOS セットアップの「セキュリティ」メニューの「自動ウェイクアップ時」で、パソコンを指定時刻に起動させたり LAN を使って起動させたりする場合に、BIOS のパスワード入力を要求するかどうかを設定することができます。

■ ハードディスク用のパスワードについて

ハードディスク用のパスワードを設定すると、パソコンを起動するときにパスワードの入力が必要になります。

設定状態によっては、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードの入力が必要になります。

ただし、管理者用またはユーザー用パスワードと、ハードディスク用パスワードが同じ場合は、パスワードの入力は1回になります。

パスワードを変更する／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
- 2 「セキュリティ」(「Security」) メニューで変更したいパスワード設定を選択して【Enter】キーを押します。**
 - ・管理者用パスワード設定
 - ・ユーザー用パスワード設定
 - ・ハードディスクセキュリティ→ドライブ 0 用パスワード設定パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。**
新しいパスワードの入力を求められます。
- 4 新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーを押します。**
新しいパスワードの再入力を求められます。

重要

- ▶ パスワード設定時に必ず行うこと
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れると、パスワード機能が解除できなくなり、修理が必要となります。
そのため、パスワードを設定したら、次のことを行ってください。
 - ・解除する手順が書かれたこのページを印刷しておく
 - ・設定したパスワードを忘れないよう、何かに書き留めておくまた、これらは安全な場所に保管しておいてください。
管理者用パスワードやハードディスク用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元までご連絡ください。なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
 - ▶ パスワードを忘れるとすべてのデータが失われます
ハードディスク用パスワードは、盗難などによる不正な使用を防止することを目的としています。これは強固なセキュリティであるため、もしもパスワードを忘れてしまうと、たとえ修理をしても、パスワードの解除や、ハードディスク内のプログラムやデータの復元ができず、これらのデータは完全に失われてしまいます。
パスワードの管理には充分注意してください。
- 5 手順 4 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーを押します。**
「変更が保存されました。」(「Change has been saved」) というメッセージが表示されます。
 - 6 【Enter】キーを押して、設定を終了します。**
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」(「Setup Warning」) と書かれたウィンドウか、「パスワードが一致しません。もう一度パスワードを入力して下さい。」というメッセージが表示されます。**【Enter】**キーを押して、手順 4 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、**【Esc】**キーを押してください。

Point

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません。」（「System Disabled」）というメッセージが表示され、警告音が鳴り続けます。その場合は、電源ボタンを 4 秒以上押し続けてパソコンの電源を切ってから 10 秒ほど待って、もう一度電源を入れます。その後、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順を最初から行い、手順 4～5 で何も入力せずに、【Enter】キーを押してください。

Point

- ▶ 管理者以外の方がユーザー用パスワードを削除できるのは、「セキュリティ」メニューの「ユーザー用パスワード文字数」が 0 に設定されているときだけです。0 以外に設定されている場合は、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。ユーザー用パスワード文字数の設定については、「セキュリティ」メニューで「ユーザー用パスワード文字数」の項目ヘルプをご覧ください。

BIOS が表示するメッセージ一覧

パソコンを起動した直後に、画面上にメッセージが表示される場合があります。これらのメッセージは「BIOS セットアップ」という、パソコンの環境を設定するためのプログラムが表示しています。

メッセージが表示されたときは

パソコン本体や周辺機器に問題があると、パソコンを起動したときにエラーメッセージが表示されます。

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップの設定値を確認します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを起動して各項目の値が正しいか確認してください。

また、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して再起動してください。

それでもメッセージが表示される場合は、手順 2 に進んでください。

2 周辺機器を取り外します。

別売の周辺機器の拡張カードやメモリなどを取り付けている場合には、パソコンの電源を切ってからそれらの周辺機器を取り外し、再びパソコンを起動して動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1 つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を 1 つずつ取り付け、パソコンを再起動して動作を確認してください。

このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記のように処置してもまだ同じメッセージが表示される場合や、次の「メッセージ一覧」に当てはまるメッセージがない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」のご利用については、『取扱説明書』－「サポートのご案内」をご覧ください。

メッセージ一覧

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。メッセージ中の「n」には数字が表示されます。また、メッセージは機種により異なります。

■ 正常時のメッセージ

Point

- ▶ 正常時のメッセージを常に表示させるには BIOS セットアップの「起動」メニューにある「起動時の自己診断画面」の項目を「使用する」に設定してください。

パソコン本体や周辺機器が正常の場合は、BIOS のメッセージは自動では表示されません。

正常時に BIOS のメッセージを表示させる場合は、パソコンを起動して「FUJITSU」のロゴマークが表示されている間に【Esc】キーを押します。

- **nnnM システムメモリ テスト完了。(nnnnM System Memory Passed)**
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **nnnK メモリキャッシュ テスト完了。(nnnnK Memory Cache Passed)**
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- **マウスが初期化されました。(Mouse initialized)**
マウス機能が初期化され、フラットポイントが使えるようになったことを示しています。
- **Please Wait...**
お待ちください ... (Please Wait...)
BIOS セットアップの起動中に表示されます。

■ エラーメッセージ

このパソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

このマニュアルに記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

Point

- ▶ このマニュアルに記述されていないエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● **拡張メモリエラー。アドレス行: nn (Extended Memory Failed at address line: nn)**

メモリのテスト中にエラーが発見されたことを示しています。

このメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● **キーボードエラーです。(Keyboard error)**

キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。

再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● **キーボード接続エラーです。(Stuck Key)**

キーボードテストで、接続エラーが発生したことを示しています。

テンキーボードや外付けキーボードを接続している場合は、正しく接続されているかを確認し、パソコンを再起動してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● **ディスクのエラーです。: ハードディスク n (Failure Fixed Disk n)**

再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● システムタイマーのエラーです。(System timer error)

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● リアルタイムクロックのエラーです。(Real time clock error)

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。(System CMOS checksum bad - Default configuration used)

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、標準設定値が設定されたことを示しています。

【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、設定を保存して再起動してください。それでもこのメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられます。「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● 前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。

起動途中で電源を切ってしまったたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかつたりしたとき、3 回以上同じ操作で起動し直したりしたときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は【F2】キーを押してください。

● <F1>キーを押すと継続、<F2>キーを押すと BIOS セットアップを起動します。(Press <F1> to resume, <F2> to Setup)

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前にこのメッセージが表示されます。【F1】キーを押すと発生しているエラーを無視して OS の起動を開始し、【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。

● 日付と時刻の設定を確認してください。(Check date and time settings)

日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。

● NVRAM データが正しくありません。

NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
このメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● サーマルセンサエラー。システムの電源が切れます。(Thermal Sensor Error has occurred)

温度制御系の設定が正しく行えなかったことを示しています。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● ファンエラー。システムの電源が切れます。(Fan Error has occurred)

冷却用ファンのテストでエラーが発生したことを示しています。再起動してもこのメッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

● 前回の起動中にサーマルセンサエラーが発生しました。

前回の起動時の自己診断テスト中に、サーマルセンサエラーが発生していたことを示します。

● 前回の起動中にファンエラーが発生しました。

前回の起動時の自己診断テスト中に、ファンエラーが発生していたことを示します。

● Invalid system disk**Replace the disk, and then press any key**

フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- **Non-System disk or disk error**

- Replace and press any key when ready**

- フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

- フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- **NTLDR is missing**

- Press any key to restart**

- フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

- フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- **Remove disks or other media.**

- Press any key to restart**

- フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。

- フロッピーディスクを取り出して、【Space】キーなどを押してください。

- **Operating system not found**

- OS が見つからなかったことを示しています。

- BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

FMV-BIBLO

補足情報

B6FJ-3681-01 Z0-00

発行日 2010年1月

発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。